

番号	43	名称	お茶の水橋
指定日	平成 19 年 3 月 28 日	所在地	神田駿河台二丁目～文京区湯島一丁目（神田川）
設計者		竣工	昭和 6 年（1931）5 月



### 歴史・文化的特徴

神田川随一の人口の渓谷地に明治 24 年(1891)に初めて架けられた橋であった。また、初めて日本人の手で設計が行われた鉄橋で、神田川水面から 15 m 以上あり、新たな東京名物となった。

「お茶の水」の名称は、神田台を開削した後、この付近から将軍にお茶の水を献上した逸話や現在の「外堀通り」が江戸期には「御茶之水通り」と呼ばれていたことを由来にしている。明治 37 年(1904)には、橋の西側に駅名「御茶ノ水」が開業し、さらに橋下を万世橋に向けて鉄道工事が行われ、同 41 年(1906)には昌平橋西側の高架橋に仮駅まで延長された。

大正 12 年の関東大震災で橋は焼失、大きく破損し、現在の橋に架替られ、御茶ノ水駅も橋の東側、聖橋との間に新たに一体的に作られた。

### 意匠・構造の特徴

珍しいラーメンゲルバー構造の鋼製桁橋。神田川を開削したことにより造り出された渓谷（通称「御茶ノ水谷」）と調和した外観を持つ。

石積風の親柱が特徴的。手すりは独特のデザイン。橋桁の側面の色は緑色。

### 周辺景観との関係

橋上は神田川の渓谷や JR 中央線、護岸の緑、相対する聖橋をのぞむ絶好の眺望点である。

周辺は地形が開け、周囲から渓谷に調和した橋梁の姿を見ることができる。聖橋からは橋梁の印象的な全景を見ることができる。御茶ノ水駅が渓谷の中ほどに設けられているため、駅ホームから橋梁を仰観することができる。

電車からは、様々な角度から見え方が変化する橋梁を鑑賞できる。橋詰に御茶ノ水駅改札があり、歩行者の通行が多い橋である。文京区側から渡ると、賑やかな学生街へのゲートとしての演出も果たしている。

水面からは幾重にも並ぶゲルバー桁を見上げることができ、構造的迫力を感じる。